

雑木林ファンクラブ 通信

住所:〒 247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

雑木林ファンクラブの役割

巻頭言の依頼を受け、色々と手元資料を調べて見ますと来年は当雑木林ファンクラブの設立20周年に当たります。そこで今一度、当クラブの設立経緯と役割について再確認して見たいと思います。

1986年「横浜自然観察の森」開園の2年後に「友の会」が設立され、これに遅れて2年後の1990年(平成2年)センターの主催行事として「雑木林ファンクラブ」が年間メンバー制のボランティアグループとして発足しました。設立主旨は「観察の森」における「雑木林の再生並びに保全管理」と成っています。ここで言う「メンバー制のボランティアグループ」とは、先ずセンターが開催する2日間の「雑木林体験講座」を受講することがメンバー登録の最低条件で、講座の内容は「観察の森」の概要、「雑木林の再生 / 保全管理」等の机上研修と、鎌、鉋の使用法と手入れの仕方、更に植樹等の実践研修がありました。

このような経緯から、1998年センターの意向を受け「友の会」に編入し、一プロジェクトと成る迄は一貫してセンター直轄のグループで、雑木林の再生と保全に関わるボランティア活動を行っていました。年間を通しての主な活動内容は、春の植樹 / 補植、秋口までの下草刈り、秋口から冬への間伐をベースに、稀少植物の種蒔移植、堆肥作り、炭焼き、時には秋口に森で採取した植物での染色、和紙作りにも挑戦していました。

一方活動場所は、現在のクヌギ林やサクラ林以外に下草刈りでは、ノギクの広場、ウグイスの草地、アキアカネの丘、モンキチョウの広場、更にF地区、G地区と呼ばれていた尾根道沿いの雑木林があり、間伐作業としては観察センター南西斜面のスギ、ヒノキ林、J地区、K地区と呼ばれていた尾根道に至るまでのヒノキ林がありました。これらかなり広い区域で活動を行っていたのですが、当時はチェーンソーや刈払い機は無く、すべて手鎌、手曲り鋸や枝払い鋸での大変な作業でしたが、毎回気持ちよい汗を流した記憶があります。



J地区、K地区のヒノキ林は当初予定の手入れが終わったとの理由で、また他の活動区域はその後の諸事情で活動中止あるいは休止状態です。スギ、ヒノキ林が残る観察センターや炭小屋の南西斜面を含め、休止中の区域も今一度見直しを行い、活動区域に入れても良いように思います。

15年前開発に伴う宅地化が進み、子供の頃遊んだ区内の裏山、谷戸の池、小川が次々と失われて行くのを目の当たりにし、何か出来る事は無いかと思っていた矢先、上記体験講座を知り当雑木林ファンクラブへ入会しました。以来、私の地域活動は生活の一部と成り現在に至っています。

ボランティア活動の継続条件の第一に「活動が楽しい」が挙げられますが、単に「楽しい活動」だけを追い求めるのではなく、クラブ規約にも記載されているように「横浜自然観察の森」に於ける「雑木林ファンクラブ」の役割を再確認し、活動に関わる諸技術をレベルアップさせ「額に汗するボランティア活動」の喜びを更に増やして行きたいものです。

(片岡 章)

1. 7～8月の活動報告

- ① 7月25日(土) 晴 17人:トウネズ間伐、本窯炭材詰め
「森のこどもまつり」支援
- ② 8月1日(土) 晴 19人:竹林整備、炭小屋整理
横浜さかえ高校ボランティア体験(28名+先生3名+PTA2名)支援
- ③ 8月8日(土) 晴 15人:竹林整備、トウネズ間伐、鎌整備
- ④ 8月15(土) 晴 28人:クヌギ林調査、納涼会(杉山さん・野鳥の会飯塚さんにも参加頂きました)
- ⑤ 各水曜日に準活動日として木工作业を実施



森の家から、反対側の尾根筋を眺めると、10円玉ハゲのような地点が…(透けて地面が見える)。竹林整備の成果が傍からも分かるようになってきました



竹林整備用の新兵器「太丸」。倒した竹の枝切りに威力を発揮します(屈まずに作業が出来ます)。直径40ミリの枝も切れます



7月25日(土)森のこどもまつり
1000名の方が楽しまれたそうです。佐藤さん・武田さんが応援されました
<観察の森センター提供>



横浜栄高校(上郷高校と港南台高校が合併)のボランティア生。30分弱の作業(下草刈り)でフウフウ…。でも、16歳の若者の時間は中高年のそれより遥かに長く感じ、心に刻まれたはず! ?。
何時かここに戻ってきて欲しい<センター提供>



クヌギ林調査のための5つにゾーン分を実施しました。



納涼会に杉山さんもお出でいただきました。お元気そうで、我々も元気を貰いました。

2. ～9月度活動予定

- ① 8月22日(土) クヌギ林下草刈り、製材、ベンチ作成
センターイベント「ハマの森遊びシリーズ キッズ編」
- ② 8月29日(土) **活動休止日(炭小屋での活動はできません)**
- ③ 9月5日(土) トウネズ除伐・下草刈り・竹林整備の何れかを、状況に合わせて実施
- ④ 9月12日(土) 一同上ー
- ⑤ 9月13日(日) 13:30～ 友の会・定例会:どなたでも参加できますのでお気軽にどうぞ
- ⑥ 9月19日(土) 一同上ー、運営会
センターイベント「ハマの森遊びシリーズ ちびっこ編」
- ⑦ 9月26日(土) 製材、ベンチ作成
- ⑧ 毎水曜日:準活動日

3. その他

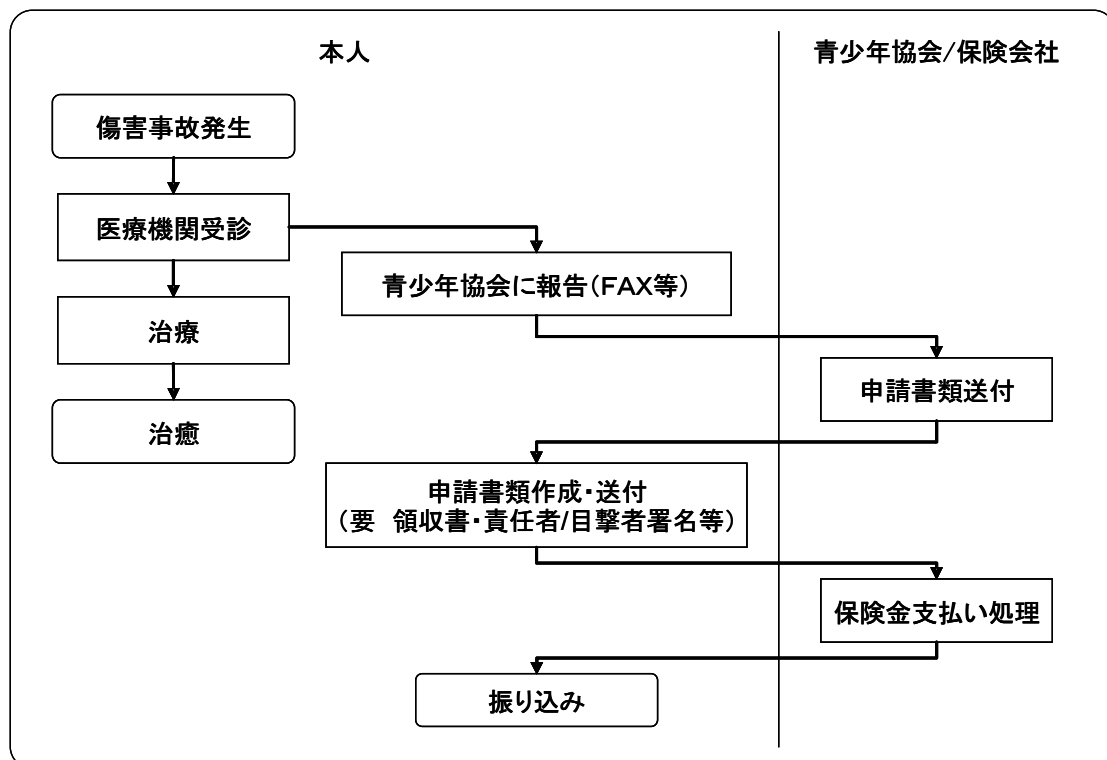
- ① キャンドルナイトinさかえ出展「森の愛ピラミッドを「かさまの杜保育園」に貸し出します。
- ② 炭焼きデータを最後に添付しました。このところ、良い炭が出来ています！？
- ③ 雑木林ファンクラブ通信が、インターネットでも見られるようになりました。

<http://zfc.yamagomori.com/index.html>

紙資源節約と郵送費削減およびCO₂削減のため、ネットでご覧いただける方は積極的にご利用ください。

4. 編集後記

- 巻頭コラムは、ZFCに15年間活動されている片岡さんに寄稿いただきました。ありがとうございますもうすぐZFC開設20周年なんですね。当初の体制から時代に合わせて変化してきているようですが、本来の思いを忘れてはならないと思います。
- 8月1日もハチのアタックがあり被害者が出ました。小宅の隣家にも、オオスズメバチとコガタスズメバチの巣が2つも作られてしまいました。天候不順のせいかハチが多いようです(そういえば、先月？蜂の子を食べましたね。その恨みかなあ！?)。
- ボランティア保険の申請の手順を記載しておきます。いざという時に。傷害事故を起こさないことが一番ですが。



<炭焼き記録>

記録：鬼塚さん

(1) 2009年度第1回(の補助)炭焼き記録(2009年6月21日)

4月18日(土)に本窯とドラム缶窯で竹材を焼いたが、未炭が多かった。

その未炭分を再度ドラム缶窯で焼いた。

- 1) 窯 詰 め 日時/天候 : 6月20日(土)
- 2) 火入れ/窯閉じ 日時/天候 : 6月21日(日) 雨 気温 : 22℃
- 3) 窯 出 し 日時/天候 : 7月4日(土)

● ドラム缶窯

<左窯>

<右窯>

- *炭材/重量 竹未炭材 80%容量 竹未炭材 30%容量
- *出炭量 カウントせず
- *竹酢液 1・2号合計 3.5ℓ

- 火入れ開始 6月21日 09:25 ○窯閉じ完了 左窯 13:00 右窯 14:20
- ペース配分 ・口焚き 左窯 3時間5分 右窯 4時間15分
- ・精錬 実施せず ・合計 左窯 3時間35分 右窯 4時間55分
- 最高温度(終了時) ・左窯 260℃ ・右窯 236℃

未炭材ということでもあり、早めに仕上げるため口焚き時間長くして(煙突温度 200℃ 近くまで)焼いた。

(2) 2009年度第2回炭焼き記録(2009年7月11~12日)

- 1) 窯 詰 め 日時/天候 : 本窯:2009年6月27日(土) ドラム缶窯:7月8日(水)
- 2) 火入れ/窯閉じ 日時/天候 : 7月11日(土) 晴 ~7月12日(日) 晴
- 気温 : 24℃(11日8:00) 24℃(12日8:00)
- 3) 窯 出 し 日時/天候 : 本窯:09年7月25日(土) ドラム缶窯:7月25日(土)

- 本 窯 * 炭材 竹材 342kg * 出炭量: 60.2kg * 収炭率: 17.6 %
- * 竹酢液: 55 ℓ (煙突温度 80~200℃ 範囲の採取量)

- ペース配分 ・口焚き 4時間20分 ・安定熱分解 ?時間
- ・精錬 7分 ・合計 30時間30分
- 最高温度(精錬前/後)・煙突 315℃/346℃ ・窯中央部 518℃/763℃

注:① こぶし大よりも太い材も入れたが、未炭なし。太い物も一部は原型を保って出炭出来た。竹材を火付用に上部・手前に入れたのが有効だったと思われる。

夜中も木片による微調整のみで、12日の8:00に煙突温度 200℃ を狙ったが 199℃ であった。

② 泊まり:江崎 村松 鈴木 鬼塚

● ドラム缶窯

I号(左窯)

2号(右窯)

- *炭材/重量 : 竹材 50.8 kg 竹材 48.9kg
- *出炭量(率) : 7.1 kg (14%) 7.5 kg (15.3%)
- *竹酢液 3 ℓ 3 ℓ

- 火入れ開始 7月11日 10:15 ○窯閉じ完了 左窯 17:00 右窯 17:20
- ペース配分 ・口焚き 左窯 1時間45分 右窯 2時間45分
- ・精錬 実施せず ・合計 左窯 6時間45分 右窯 7時間05分
- 最高温度(終了時) ・左窯 233℃ ・右窯 303℃

2号(左窯)は火付が進まず、14:40から最終 303℃までファンで空気を送った。

注 ① 毎度のことだが、2号(右窯)の火付が悪い。どんな理由があるのだろうか。

② 両窯とも炭の出来はまあまあ?だった。売るには肌つやがいま一つ不足。

以上